１．校訓、教育目標、教育方針、努力目標

校　訓　　自　主　・　創　造　・　敬　愛

教育目標
共に考え、協同して課題解決に努める生徒の育成

教育方針
○　職員の和と秩序をもって経営の中心となし、常に教育者としての使命感に徹し、教職員としての識見と指導力を高める。
○　家庭・地域社会との連携を密にし、知・徳・体の調和のとれた、たくましく人間性豊かな生徒の育成を目指し、活力ある学校の創造と望ましい校風の樹立を図る。

めざす学校像	めざす生徒像	めざす教師像
楽ではないが、やりがいのある学校	知恵を出し合い、最善を尽くすたくましい生徒	他と協働し、チーム力の高い教 師集団
○明るいあいさつの響く学校 ○規律ある中で、挑戦する気迫に満ちた学校 ○他を思いやり、地域と共にある学校	○進んで学びを生かそうとする生徒 ○生きて働く知識技能を身に付けた生徒 ○他と考えを共有し、より良い解決策を模索できる生徒	○生徒への愛情あふれる職員（粘り強く働きかける職員） ○生徒の思考と対話を促進するﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝ力を持った職員 ○協働の精神で和を重んじる職員

教師と生徒が共に研鑽し、学びの土台をつくる

個が生きる教育の推進

重点努力目標

１．学びに向かう姿勢の定着による学力向上
２．人権教育の推進による道徳性の向上
３．特別支援教育の推進と生徒指導の充実
４．地域を愛し、地域に貢献するふるさと教育の推進
５．健康・安全教育の推進

2. 令和7年度 学校経営方針

⑴ 校訓に基づく学校運営を通して、学校教育目標の達成を目指す。

●校訓「自主」「創造」「敬愛」について

「自主」：自らすすんで行動し、物事をより良い方向へ進めようとする意識であり、自ら学び、考え、行動する力をつけること

「敬愛」：互いを尊重し、支え合い、高め合う意識であり、互いにコミュニケーションを取り合い、理解し合ったり、支え合ったりする力をつけること。お互いに切磋琢磨して高め合うことや、行き詰まった人を思いやり、励ましたりすることもある。

「創造」：質の高いものやオリジナリティのあるもの、人に感動を与えたり、多くの人のために役立ったりするものを創ること。より良いものを目指したり、高いクオリティを求めたりするには、失敗を恐れず挑戦する気持ちや失敗しても立ち上がる粘り強さ、経験や学びを生かしていく力などが必要となる。

●教育目標「共に考え、協同して課題解決に努める生徒」の育成について

「共に考え、協同して課題解決に努める生徒」とは、まさに、「自主」と「敬愛」を土台として、より良いものを「創造」しようとする生徒の姿を表している。つまり、校訓を連動させて創造性を高めることが、本校の教育目標の達成につながることになる。

また、学校教育目標の達成のためには、教師や生徒、保護者そして地域の方が、目標を共有して、同一歩調で歩んでいくことが大切である。そのためにも校訓「自主・創造・敬愛」を常に共通の目標として活動実践を行うことが重要である。

⑵ 令和6年度の学校評価から見える生徒の課題

●新3年「主体的に自己を高める力」、新2年「学習や活動を意欲的に行う力」をつける必要がある。

新3年生は、1クラスに39名の学級である。学校評価において、自主・創造・敬愛の各項目が、『3』の評価であり、「『4』を付けるには、積極性と主体性がほしい」というところである。

新2年生は、1クラス30名であるが、学習だけでなく様々な活動に対して意欲を持てない生徒が多くいる。

自主・創造・敬愛の各項目で、『2』を切る評価であり、極端に雰囲気を悪くする生徒もいる。小学校の頃からそのような雰囲気のもとでの学校生活を送っているため、「楽しい学校生活」の経験が少なく、むしろ気まずい雰囲気に慣れてしまっている学年とも言える。それは、とても悲しいことであり、何とかして、この子たちに学校生活の楽しさや、みんなでやりきることのおもしろさ、充実感を味わわせたい。そのような学校生活を目指したい。

●[学びの土台]…「聞き合う」「考え合う」「話し合う」生徒を育成し、支持的風土をつくる。

これは、昨年度の本校の研究内容の一つである。この支持的風土こそが、前述の課題を克服するための前提条件として不可欠な要素だと考える。本校の研究では、「学びの土台」となる活動を生徒同士の活動を仕組むことで実践させるとともに、JUMP課題を準備して、生徒に取り組ませた。JUMP課題は、レベルの高いものが良いと言われていたが、研究発表会の助言では、生徒目線で、生徒が興味関心をひくものでいいので、継続的に行うことが大切であるとアドバイスを受けた。

本校の実態に応じた授業実践として、次のことを大切にしてほしい

①分かりやすい授業や低位の生徒も参加しやすい授業、生徒が取り組みやすい学習課題の工夫をする。
②授業の中で、生徒同士の「聞き合い」「考え合い」「話し合う」場面を仕組み、学びの共同体づくりをする。
③生徒たちにできる場面を与え、褒める機会を多くつくる。

（9月に東京大学佐藤学教授、来校予定）

(3) 生活サイクルを安定させて、望ましい生活習慣を定着させる。

●生活サイクルの基本として、「朝の会」と「帰りの会」を、節度を持って行うことを重視する。

本校ではこれまで、朝の会の時間が短いために、職員からの連絡が中心の連絡会になっていた。そして、その慌ただしい雰囲気のまま、朝学習、授業と続いていた。そこで、8:05～8:15を朝の会の時間と設定し、一人一人を大切にし、その日の見通しとやる気を持たせる会とする。

・学年主任を中心として、全学年、全学級が同一歩調で、節度ある学校生活を送らせる。

・朝の会、給食指導、清掃活動、帰りの会の日々のサイクルを、丁寧かつ迅速に実践させる。

① 朝の会や帰りの会を、節度を持って実施し、「聞き合う」「考え合う」「話し合う」意識を育てる。

② 教師の話を真剣に聞き、敬意を持って実践する意識を育てる。

・生徒が聞きたくなる話、聞いて「楽しい」と思うような話をしてほしい。

・人の思いを「言葉で受け止める」という経験を多く作ってほしい。

③ 教師や生徒が伝えたことを、生徒が実行することを見届け、賞賛する。

【短学活で付けたい力】

❶情報を大切にする姿勢（連絡を聞く。連絡をメモする。配布物を確実に渡す。配布物を大切にする。）

❷約束や決まりを守る姿勢（期日を守る。教師や生徒の指示や連絡を守る。）

❸係活動を大切にする姿勢

❹教師や級友の発表やことばを大切にする姿勢

●授業→家庭学習→次時の授業　の学習サイクルを 4 月、5 月で定着させて、良い学習習慣を築く。

① e-ライブラリやトライ　イット、duolingo などを授業で活用し、復習でも活用させる。

② クロムブックの持ち帰りと持参の徹底。（クロムブックの家庭充電の徹底）

・この習慣を、4月・5月で付けたい。

・ICT の自己管理能力とともに、家庭学習の習慣化を図りたい。

③ クロムブックを家に忘れたりした場合の対策をしっかりと行う。（代用プリントの準備）

●学級通信や学年通信などを発行して、職員や学年、学校の思いを、文字（ことば）で伝える。

① 通信には、生徒の様子や頑張り、職員の思いを盛り込み、生徒の頑張りを生徒・保護者に共有させる。

② 通信は、学年通信や学級通信など学年や学級に応じた形態で良いが、最低でも月一回は、発行する。

(4) 各職員が「個が生きる」教育を模索し実践することで、全力を尽くし、支え合い高め合う職員集団をつくる。

「個が生きる」とは

教育を推進・牽引するのは、職員であり、その職員一人一人が個々の力を発揮してこそ、活発な教育現場が実現する。つまり、「個が生きる」の第一は、<u>各職員の力をフルに発揮できる教育現場をつくる</u>ことである。より良い教育環境や生徒の学びの機会、効果的な教育計画のために、全職員の知力と実践力を結集してほしい。

そして、<u>生徒の可能性を見出し、個々の力を引き出すため</u>には、その実態を把握し、困り感や要望、より良い指導方法などについて、トップダウンやミドルアップ、ボトムアップなど、<u>様々な方向から意見やアイデアを出し合い、方策を模索して、実践していかなければならない。</u>つまり<u>「チーム西彼」としての組織力</u>を生かした展開が図られるよう努力することが大切である。

<u>職員が、生徒の第一の理解者となり、その力を信じ、高める働きかけを行うことで</u>、生徒は自信を持って行動できるようになる。生徒同士が切磋琢磨したり、支え合ったりしながら、伸び伸びと活動する姿こそ「個が生きる」姿であり、その実現のために、<u>生徒とともにある職員意識</u>を大切にし、<u>我々職員の姿勢と熱意で、生徒の心に火をつけ、自分を信じ、やる気に満ちた生徒を育てたい。</u>

●生徒のことを第一に考える職員でありたい。

【西彼中学校の中１ギャップ】

本校の大きな課題・・・小学校から中学校への大きな変化が、生徒の生活意識、学習意識に大きく影響する。

【生活の変化】

① 通学距離が大きく伸び、朝早い登校、夕方遅い下校となる。

② バスの乗り換え等に時間がかかることや荷物の重さが生徒の負担となる。

③ 3つの小学校が合流し牽制し合うことで、生徒が伸び伸びと活動できない場合がある。

④ 小学校規模や生活習慣の違いで、学習規律がまちまちである。（学習環境の変化を配慮する）

⑤ 中学校生活と小学校生活の違いに戸惑いを持っている生徒がいる可能性がある。

【中1ギャップへの対応】

① 西彼中学校における望ましい中学生活を、中1で丁寧にしっかり身に付けさせる。

② 朝の会（朝学習）、給食、掃除、帰りの会の内容を徹底する。

③ 生徒の荷物の負担感を考慮した学習道具の持ち帰りルール、PCの持ち帰りルールをつくり、実践する。

④ 中1ギャップとなる負担感や生徒の不安感を取り除く対策をとる。（職員の重要事項とする。）

⑤ 西彼中学校で過ごすための望ましい時間管理能力や生活習慣を身につけさせ、生活を充実させる。

【学習規律や学びへの意識を育てるために大切なこと】

① 教師の指示や連絡を前向きに受け止める謙虚さと信頼感を育てることが最も大切である。そのためには、
教師も謙虚に生徒の声に耳を傾け、生徒の目線で物事を捉える行動を実践する。

② 教師からの言葉や働きかけを、誠意を持って聞くという意識を育てる。（教師への信頼）

③ 「やるべきことは、きちんとやる」ということが生徒と教師の共通認識となるように、日々、学級全体の活動を通して、忍耐力を育てていく。

【基本的生活習慣の定着】

① 「2分前着席、1分前黙想」を生徒自身の手で習慣化させる。（ノーチャイム行動の習慣化）

② 聞く姿勢の習慣化、話し手を大切にする意識。（聞く人は、話す人に身体を向けるという指導）

③ 話し手の伝達力、表現力を伸ばす。（きちんと話せば、きちんと聞いてもらえる。という指導）

④ 分からないことは、迷わず聞く。（「どうしてそうなるのか？」という疑問を大切にする指導）

【協同的な学びのための学習スキルの定着のために】

① 「生徒同士が対話して考える授業」の実践に取り組む。

② 教師は、生徒同士の発言をつなぐことを大切にする。（その意見について、「あなたはどう思う？」）

③ 学習課題（生徒の意欲を引き出すJUMP課題）を重視した授業プランづくりに取り組む。

④ 単元を見通した「協同学習」を展開する。（この単元で深く考えさせたい、探求させたい場面はどこか？）

【ともに学び、ともに高め、磨き合うために】

① ローテーション道徳で多くの職員が生徒一人一人と接し、思いを伝え合い、議論し合うことで、人としての生き方、考え方を共有したり、より良く生きることの大切さを実感させたりする。

② ローテーション道徳において、人生における学びや思考、議論の大切さを、各職員が様々な視点で示したり、協同の大切さを実感させたりすることで、「学びの共同体」づくりの実践力を高めると共に、生徒たちの共同スキルの向上を図る。（道徳で、生徒と共に楽しく、真剣に議論する。）

●支援を要する生徒、弱い立場にある生徒への積極的な関わり

【すべての生徒にかかる特別支援教育推進のために】

① 授業のユニバーサルデザイン化に取り組む。

・聞き取りやすい言葉で話す。 ・ねらいを焦点化する。・視覚化する。 ・共有する。 ・振りかえらせる。

② 具体的な行動を指示する。生徒の疑問や戸惑いに適切に応える。

③ 生徒の行動の裏にある生徒の心情にも配慮する意識を持つ。（決めつけにならないようにする。）

【配慮を要する生徒にかかる支援・指導のために】

① 支援委員会による情報の共有と具体的支援の在り方について、共通認識のもとに支援・指導にあたる。

② 特に配慮を要する生徒については、自他の違いを感覚的に理解させる。

③ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の職員共有を図り、それぞれの生徒の目標を確認するとともに、生徒の目標達成に沿った支援に努めること。

5. 不祥事根絶に向けて

（1） 本校で決して起こしてならない不祥事は体罰である。過去の体罰事案は容易に払拭されることはない。「STOP 体罰、NO 暴言」は西彼中学校の命題である。

（2） 不祥事防止のための最大の手立ては、職員間のコミュニケーションの質と量である。まずは、よく話し、ともに悩み、手を差し伸べること。

（3） ちょっと気になったら、危機管理の始まり。報告・連絡・相談については、機を逸せずに行うこと。

（4） 不祥事の発生は、学校の教育力を急激に低下させる要因となる。故に、個人の問題ではなく、全体の問題として捉えること。

（5） 昨年度は、職員同士が連携して動くことで、生徒の命を救う事例があった。職員同士が協力することで、お互いの命や立場を助けることは、多くある。不祥事という危機管理も、みんなで力を合わせて行いましょう。

6. 学力向上のために西海市が行っていること

（1） ICT関係

① e-ライブラリ ② トライ イット ③ ロイロノート ④ duolingo

⑤放課後オンライン学習（英語） ⑥ メタバース（不登校対策）

（2） テストや検定

① 西海市学力調査（1月：5教科） ② 英検

（3） 学級経営・生徒理解

① UQテスト ②ハイパーUQ研修会

（4） 職員研修

① 西海市教育研究会 ② 西海市夏季研修（R6：ICT研修、特別支援教育研修）